

## 2 悩み

生徒と保護者の  
進路への希望が異なる場合、  
どのように指導していけば  
いいのか悩みます。

互いのニーズを十分伝え  
最終的には生徒を守る！

子どもと保護者の間にギャップがある場合、一番気をつけたいのは、教師が保護者の駒になること。保護者と一緒になって教師が説得し始めると、生徒は確実に離れていきます。これが一番まずい。

一方で、「○○君の人生なんだから、自分で決めればいいんだよ」と生徒をけしかけ、保護者を無視して突っ走ってしまうと、保護者は教師を信用しなくなり、一切相談してもらえなくなります。

大切なことは、中庸とカウンセリングマインド。最終的には、子どもの自己決定が大事であるという態度を貫くことが大切ですが、そこにいたるまでの経過で、保護者と生徒が互いのニーズをきちんと伝え合っていくのを支援するのが教師です。

まず、生徒には、最終的に決めるのはキミ自身、その意思を尊重するということをしっかり伝えたい



えで、保護者が求めていることを十分に聞き、わかりやすく伝える。保護者にも、最終的にはお子さんが決めることが大事だと十分に伝え、そのうえで「おっしゃることはよくわかります。そのことを私も伝えますので、本人にもよく考えてもらいましょう」と話をしていく。

つまり、教師は保護者と生徒の間で、お互いの言葉をうまく翻訳して伝える通訳となることが大事です。しかも、単に言葉を媒介するだけでなく、「最終的には子どもを守る。自己決定を支援する」という哲学を貫く。スキルではなく、フィロソフィーが大事なのです。

もとろとみ・よしひこ ● 明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。1963年福岡県生まれ。筑波大学人間学類・同大学院博士課程修了。千葉大学教育学部助教授を経て現職。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワークを支援する「教師を支える会」代表。時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー。「偶然をチャンスに変える生き方 最新キャリア心理学に学ぶ」、「7つの力」を育てるキャリア教育」など著書多数。